

令和5年産 果樹情報（第5号）

令和5年9月12日
宮城県大河原農業改良普及センター

**高温が続いています、収穫が遅れないよう注意しましょう。
日本なしやももは、収穫後の防除を必ず実施しましょう。**

1 気象経過

8月は、記録的な高温、少雨、多照となり県内各地で猛暑日となることがありました。また、夜間は気温が高く年間を通して最低気温の高い方からの記録を連日更新しました。高温に関する早期天候情報（東北地方 令和5年9月7日 仙台管区气象台発表）によると、9月13日頃からかなりの高温（5日間平均気温平年差+2.5℃以上）になると予想されています。引き続き、農作物の管理や健康管理に注意してください。

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

果樹作況調査ほにおけるりんごの果実肥大状況は、表1のとおりです。

表1 9月11日現在のりんごの果実肥大状況（単位：mm）

樹種	地点	品種	令和5年		令和4年		平年値		平年比（%）	
			縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
りんご	白石・郡山	ふじ	74.0	80.2	71.8	75.4	73.2	78.3	101	102

3 樹種ごとの管理

（1）りんご

イ 中晩生品種の着色管理

- ・ 例年、葉摘みは中生品種で収穫の約25日～30日前、晩生品種で収穫の約30日～40日前までそれぞれ2回程度に分けて実施しますが、今年は、高温が続いているため、着色向上のための葉摘みや玉回しは、日焼け果の発生を助長する恐れがあります。気温の状況を確認して実施の有無を判断しましょう。
- ・ 成熟期の高温は、着色不良や果肉軟化を招くため、果実の熟度や品質を確認しながら収穫が遅れないよう注意しましょう。

ロ 病虫害防除

- ・ 病虫害防除所による病虫害発生速報(8/17～22調査)では、斑点落葉病が「平年並み」、褐斑病、ハダニ類、キンモンホソガが「やや多」となっています。品種による収穫時期の早晩を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定しましょう。
- ・ 晩生種で最終散布を早めに切り上げると、果実に斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病等が発生したり、シンクイムシ類等の食害を受けたりする場合もあるので、生育状況と収穫時期にあわせた防除を行ってください。

（2）日本なし

イ 中晩生品種の収穫

- ・ 成熟期の高温は、果実表面色に比べ果肉の熟度は進むため、過熟にならないよう

適期収穫を徹底しましょう。

- ・ 豊水は、同一樹でも主幹内部の果実は熟期が遅れるので数回に分けて収穫します。
- ・ あきづきは、地色が見分けにくいので果実全体が黄褐色になり、ていあ部の緑色がリング状に残った状態で収穫します。
- ・ 新高は、樹の周辺部に着果した果実や大果を優先して収穫します。

ロ 病虫害防除

- ・ 病虫害防除所による病虫害発生速報(8/17～22 調査)では、黒星病が「やや少」、ハダニ類が「多」、果樹カメムシ類が「平年並み」となっています。
- ・ 黒星病の発生は少なめで推移してきましたが、収穫後の秋季防除は、翌年の感染を減らすために非常に重要です。秋季防除は、りん片生組織が露出する時期から落葉率 80%までの時期(11月上旬頃まで)に最低2回は実施しましょう。
- ・ 被害落葉は、翌年の第一次伝染源となるので、園内の落葉は、土中に埋めるなど適切に処分します。また、ロータリー耕によるすき込み、草刈機による粉碎だけでも効果が期待できます。

(3) もも

- ・ せん孔細菌病の発生が多い園地では、収穫後の9月上旬から薬剤散布を2週間間隔で3回実施しましょう。台風等の強い風雨により感染が多くなるため、降雨前の予防散布に努めてください。

4 台風対策

最新の台風情報等に注意し、農地・農業用施設の見回りについては気象情報を十分に確認し危険な天候がおさまるまで行わないようにしましょう。

(1) 事前対策

- ・ 収穫可能な果実はできる限り収穫しておきます。その場合、農薬散布から収穫までの経過日数に注意します。
- ・ 強風に備えて事前に防鳥ネットや支柱の点検・補修を行います。また、倒伏しやすい樹体は支柱で補強します。
- ・ 強い風雨が予想される場合は、りんごの斑点落葉病、なしの黒星病、もものせん孔細菌病等の感染拡大が懸念されるため、薬剤散布を行うとともに、り病している葉や果実は園外へ処分します。
- ・ 排水が速やかに行われるよう園地周辺の集排水路の点検、清掃を行います。

(2) 事後対策

- ・ 強風等により倒伏した場合は、健全な根を切らないようにできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定します。枝裂けした場合は、針金、ボルト等で結合し、傷口に塗布剤を塗ります。
- ・ 被害により樹勢が弱まっている場合は、薬害が発生しないように注意しつつ病虫害の防除を実施するとともに、樹勢に見合った適切なせん定、摘果を実施します。
- ・ 落果して土壤に触れた果実は、果汁原料用には利用しないで適切に処分します。

中国における火傷病発生に伴う宿主植物(花粉等)の輸入停止について

農林水産省は、中国において火傷病(かしょうびょう)が発生したことを確認し、8月30日、同国産の火傷病菌の宿主植物(花粉等)の我が国への輸入を停止しました。

今後の中国産花粉の使用状況調査についてご協力をお願いします。